

令和8年度第1回別府市総合教育会議議事録

1 日 時 令和8年7月22日（水） 開会 午前9時30分

2 場 所 こもれびパーク・別府市立図書館2F ラーニングコモンズ

3 出席者

（構成員）別府市長

長野 恭紘

教育長

寺岡 悌二

教育委員

福島 知克（教育長職務代理者）

教育委員

山本 隆正

教育委員

新谷 なをみ

教育委員

松浦 倫

教育委員

田中 淳子

（事務局）総務部長

竹元 徹

総務部次長兼総務課長

行部 さと子

総務課長補佐兼政策法務係長

甲斐 健太郎

総務課主査

井上 義徳

総務課主事

甲斐 大地

教育部長

佐保 博士

教育部次長兼教育政策課長

森本 悦子

教育部図書館共創交流局長

稲尾 隆

図書館共創交流局参事兼図書館長

西澤 和江

教育政策課長補佐兼教育政策係長

中原 勝也

教育政策課教育政策係

佐藤 元昭

学校教育課長

田中 修

学校教育課参事

山田 慈子

学校教育課参事兼教育相談センター所長

藤原 良浩

学校教育課参事（共生社会実現・部落差別解消推進課参事併任）

種村 由加

社会教育課長

津川 文隆

（オブザーバー）市立小学校長・中学校長

4 報 告

学校教育課から「別府市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」（令和8年4月策定）について、報告があった。

5 議 事

（1）議題 別府市の教育課題と図書館の可能性

～教育課題解決に向けた新図書館の教育価値創造～

（2）経過

ア 別府市総合教育会議運営要綱第3条により市長が議長として会議の議事進行を行い、図書館共創交流局、教育政策課、学校教育課、社会教育課が資料を基に「図書館の可能性」、「別府市の教育課題」、「課題解決に向けて」、「まとめ」の順に議題についての説明を行った。

「図書館の可能性」については、「ラーニングコモンズエリアの活用」「個人のニーズにあった読書環境の充実」「地域の魅力を再発見する機会の創出」を挙げた。

「別府市の教育課題」については、12の課題を「個の成長・学力」「支援・安全」「地域・つながり」に分け説明した。

「課題解決に向けて」については、図書館の各機能が12の課題解決にどのように作用するのかを説明した。

最後に「まとめ」として、新図書館は単に新しい施設を建設したというだけでなく、VUCAと言われる時代における新たな価値創造、知のインフラとして別府市が抱える様々な教育課題や地域課題を解決する場となること、とりわけ教育課題に対しては、子どもを主語にして、地域、家庭、学校、これらをつなぐハブとして機能して解決に導くための新しいエンジンとなることが期待できると説明した。

イ 事務局の説明後、新図書館についての意見交換がなされた。主なものは以下のとおり。

（ア）委員側

- 学校に行きづらいと感じている生徒に対する一つの解決策として、お弁当を用意し、図書館でお弁当を食べながら参加できる講演会を開催してみてはどうか。
- 生きづらさを感じている子どもたちのいわゆるサードプレイスとしての可能性がある。
- 学校に行けない子どもが図書館に来て、そこでの体験を通してもう一度学校に行ってみようと思えるといい。
- 大学、地域、図書館の連携といった観点では、別府市には、大学が3つあり、学生を含む教育資源がたくさんあると思うので、例えば食育、介護、観光サービス業の語学力向上等、様々な別府に役立つ公開講座の実施等は、大学が担える部分と考えている。

- 市内の小中学生全員を招いて自由に過ごす企画をしてけるとよい。
- 産学官での教育価値の創造という観点では、夏のイベントや体験型ワークショップ等が求められていると感じている。
- 児童書のレイアウトについては、今はカタカナ表記としているが、平仮名表記の方が子どもや子育て中の母親にとっても探しやすい。
- 大学では企業訪問や職業体験のようなものがあるが、将来の仕事のためのワークショップやイベントなど図書館との連携としては、インターシップのような形で来てもらうなど様々なことが考えられる。
- 国際文化都市にふさわしい図書館ができたと思っている。小中高生が自分の未来を考えるのに必要な資料がたくさんあり、楽しく、知りたいことを全部知ることができる、そんな場所になっていけばよい。
- 子ども向けのイベントなどにより、学ぶ場所であり、遊ぶ場所であり、自分の未来が見える場所になってくれればよいと思う。
- 司書の企画力が大事で、ワークショップの開催などチャレンジしてもらいたいし、発信してもらいたい。予算が付かないのであれば、民間等から財源活用も検討していただきたい。
- 今は学校の先生が土日は休まないといけないので、何らかの体験のために生徒を連れ出すこともできなくなっている。そこを補完するため、図書館がハブになって、その役割を担っていければよい。
- 発信して実際に図書館に来るかどうかの問題。学校での声掛けも必要。ネットワークを広げながら核となっていくとよい。温泉、観光、外国人留学生、医療機関、障がい者施設などとコラボしながら、是非チャレンジしていただきたい。
- ラーニングコモンズは話をしてよい場所なのに会話がない。話をしてもよい場所とそうでない場所と、ゾーニングを周知し、それらによって図書館自体がどんどん盛り上がっていくと思う。
- 司書が企画するといっても、司書は本の返却対応や整理などに追われていて、今いる人数では大変だと思うので、企画やその実行の一員となるボランティアを活用していくとよい。
- 図書館のポップ・表示が控え目で、またインターナショナルな図書館なのに日本語の表示だけになっている。表示にもう少し力を入れてもらいたい。美術関係の人にしてもらおうとよい。
- 福祉関係の支援や相談などを図書館の中で行えるような企画し、対応は民間団体を活用する。
- 発達障がい者の支援として、施設の清掃業務などを依頼してはどうか。
- 市長や教育長、別府の人たちのおすすめの本の紹介をする企画が入り口すぐにあるとよい。
- 様々なコラボレーションの提案が出た。いろいろな人が混ざり合って、そこから何か新しい価値を生み出していくことができるというのが、別府

らしい。できることからやっていけばよい。トライ＆エラーの繰り返しでよいものが生まれてくればよい。

(イ) 教育委員会側

- 新図書館は家庭と地域の交流のハブとして、専門家による事業承継のアドバイスなどが行われている。そういった外部の機関と連携して、交流の場を設けるということも必要と思われる。

また、司書がまちの中の課題を見つけ、その課題から図書館の資料に対するニーズを把握することも必要で、そのため、図書館の中に留まらず、外に出ていくことも必要と考えられる。

- 子どもの読書の第4次計画は、図書館に中心となって策定していただくよう考えているところ。また、美術館、地域・郷土資料館とともに別府市の文化の中心を担っていただきたいと考えている。
- 地域との兼ね合いでいうと、夏休みに入ると非常に学生が多くなっているなか図書館に入れないということであれば、公民館の学習室の利用など、公民館にもフィードバックしていく形で考えていきたい。
- 家庭、学校、図書館の連携については、基本は学校の中での教育となる。学校教育の課題解決としては、この新図書館に来て資料を調べていくということから始まることになる。学校図書館で不足している部分をこの新図書館とうまく連携して行っていく。今既に電子図書が取組が行われており、学校からこんなこともできないかという意見が出れば実現に向けて取り組んでいければと考えている。
- 夏休みは、普段よりも自由に過ごす時間がある子どもたちを対象とした「怖いお話」「館内ツアー」といった企画を考えている。
たくさんのアイデアをいただいているので、大人を含めた様々な通年の事業の展開が重要と感じた。
- 学校の司書や学校図書館との連携としては、子ども達と学校司書の繋がりを図書館の中で生かすようないろいろな取組の形が考えられると思うので、学校司書と事業を展開していきたい。
- 既存の枠組みから外れる考え方が非常に大事。図書館は、誰も拒まない場所なので、既存の枠組みの中だけではなく、できることが想像以上にあると思うので、いろいろな意見を参考に、驚きに満ちた企画を提案していきけるような場所になるとよいと思う。

(3) 決定事項

なし

(4) 保留・検討事項

なし